

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083 (925) 7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

Ouhokai - Kaihou

桜圃会 会報

Vol.62

平成26年3月1日発行



水無月祭 第1回桜圃会長杯優勝チーム(看護栄養学部)



副賞贈呈



華月祭にて



桜圃会創立70周年記念のもちまき

感謝 さくらの森夢基金

山口県立大学学長・理事長 江里 健 輔



「さくらの森夢基金」は、2011年(平成23年)の創立70周年を機に創設されました。桜圃会会員を始め多くの皆様から、平成25年9月15日まで約二千万円の寄付を賜っています。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

さて、内閣は教育改革を最重要課題の一つとして進めるため、「教育再生実行会議」を設けており、提言の一つに「これからの大学教育等の在り方について(第三次提言)」を掲げています。その柱は、①グローバル化対応、②社会を牽引するイノベーション創出、③学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能、④社会人の学び直しの機能、⑤大学のガバナンス改革、財政基盤の確立、これらの推進・強化です。つまり、国は大学に対して社会変革のエンジンとなることを求め、かつ、そのための大学づくりを大学主体で行わせたという意向があります。

大学の教育研究の充実、発展には、授業料、設置者からの運営交付金、そして外部資金などが充てられますが、その中で、年々減る運営交付金を補うための外部資金の獲得が、いずれの大学でも重要視されています。本学では、独立行政法人化後の平成18年以降、文部科学省の大学改革に向けたプロジェクトの申請を重ね、数億円の財政支援を獲得してきました。これは、教職員が日頃より温めてきた構想が、数ある各公立大学の申請の中でも秀でた評価を得た証拠です。

昨年採択されたグローバル人材育成推進事業においては、150名以上の学生がスタディツアーを経験するに至っています。

「さくらの森夢基金」も、教育研究支援はもとより、学生の修学支援、地域貢献などへ活用します。この基金の目的をご理解いただき、今後ともよろしくご厚意を申し上げます。

本学は、平成25年度文科省の「地(知)の拠点整備事業(通称:大学COC事業)」に採択されました(全国50校)。COCとはCenter of Communityの略で、本学が地域貢献型大学として、名実ともに山口県の中核的機能を強化するための絶好の機会を与えられたといえます。

<地(知)の拠点>に向けて大学機能を強化

山口県立大学附属地域共生センター所長 加登田 恵子

今回本学が掲げたテーマは、「知の融合」と



風景 講義 マイスターコース学ちまぐや

学ほうというコンセプトです。「桜の森アカデミー」では、山口について熱く語り、温かくもてなす「観光人材」を育成する「やまぐち学マイスターコース」、子育てや子育て支援を推進するリーダーを養成する「健康づくりコース」を開設しました。やまぐち学コースでは、実際に萩の美術館に向かい陶芸についてのレクチャーを受けたり、健康づくりコースでは、調理実習を含む食育講座や徳地における野外遊び演習など、フィールドワークも満載です。また福田百子学核副会長をはじめとして、幾人もの卒業生が講師として登壇されているのも特筆すべき特徴です。

「異世代交流」による地域活力の創生です。「知の融合」とは、地域の課題解決に向けて、ともすれば縦割りになりがちな学部の専門性を越えて、学際的に実践研究に取り組むということです。また「異世代交流」は、従来の公開講座を展開して「桜の森アカデミー」という共生教育システムにより、県民と学生が世代を超えて共に交流しながら

開催場所は、本学の他に山口県庁の県政資料館にサテライト・セミナー室を設けました。文化財の格調高くレトロな雰囲気味わいつつ学ぶことができます。平成26年度からはさらに、「在宅介護」を明るく科学的に実践するスキルを身につけるためのコースも新設する予定です。関心のある方は是非、附属地域共生センターまでお問い合わせください。県大生も卒業生も、パワーアップするのは「今、でしよう!」

グッドデザイン賞受賞

国際化学部准教授 山口 光



山口県の萩ガラスと岩手県の浄法寺漆、二つの素材から生まれた「Trushio Glass (ウルシトグラス)」が二〇一三年のグッドデザイン賞を受賞しました。受

賞自体も名誉なことですが、何よりも嬉しかったことは「震災復興」として始めた仕事が成果となったことでした。

東日本大震災から数ヶ月後の二〇一一年春、岩手県の知人から「漆を使って『被災地の希望』となる商品を作りたい」という相談を受けました。彼が扱っている浄法寺漆は全国でも希少な純国産材であ

助産師養成のための別科の新設について

別科助産専攻講師 三谷 明美

平成21年保健師助産師看護師法が改正され、保健師及び助産師養成のための教育期間が6ヶ月以上から1年以上に引き上げられました。そのため本学においては、法律改正によるカリキュラムの増加、及び山口県の現状を踏まえ、今後の山口県の産科医療の質を保ち、さらなる発展・向上を目指し、平成24年4月別科助産専攻(現 定員数10名)を新設いたしました。本学のカリキュラムの

特徴として、女性と乳幼児、その家族および地域を支える専門職として、更に将来、専門職としてのキャリア探求のための基礎的なスキルを学べる教育の展開を行っています。また、本学における教育は徹底的な学生のレディネスに応じた個別指導により、専門職としての自覚と専門的な知識や技術を統合できる能力や姿勢の育成を目指しており、学生も期待に応えるべく生き生きと講義や実習に臨

り、地域のシンボルとも言える素材でした。使命感にも似た感覚で仕事を引き受けた覚えがあります。

デザインを考えるにあたり、純国産品のコラボレーションによる「日本文化の現代的提案」をコンセプトとしました。萩ガラスとの組み合わせにより、和洋様々な空間に調和するデザインとなっており、被災地と山口県を繋いだ「希望のシンボル」となってくれたら嬉しいです。

んでおります。昨年度1期生10名を輩出し、県内外で活躍しています。今年度、2期生を迎え、10例の分娩介助実習を終え、国家試験に向けて準備中です。(平成21年大学院健康福祉学博士前期修了)



山口県立大学同窓会桜園会創立70周年記念公開講座
山口県立大学客員教授特別講義

「グローバル人材の養成」

講師 内閣官房参与 谷内正太郎



平成二十五年十一月十五日(金)、内閣官房参与、谷内正太郎氏をお迎えして「グローバル人材の養成」と題して、桜園会創立七〇周年記念公開講座が開催された。この公開講座は、山口県立大学客員教授特別講義ともなっており、公開講座に先立って江里健輔学長から、「本学は、文部科学省グローバル人材育成推進事業の採択を受けており、世界に発信が出来るグローバル人材の育成を推進している。今回の講座が、グローバル人材の養成について考える一助となつて欲しい。」とあいさつがあった。

講師の谷内氏は、外務省経験が三十八年。外交官を志した理由は、国を単位として物事を考える仕事に誇りが持てると思った結果だという。谷内氏は、「バブル崩壊、ゆとり教育等により、日本は坂道を転がり落ちた。今のままで良いのではなく、今の状態に危機感を持ち、世界の中で(やってみよう)というチャレンジ精神を発揮する若者が育て欲しいと願っている。そのためにも、日本人としてのアイデンティティを持ち、広い視野と語学力を身に付ける必要がある」と力説された。谷内氏は、現在、慶応大学等で教鞭をとり、若者を育てるために谷内塾を開講されている。谷内塾では、学生の目標として①進むべき自分の道を見つける。そして志を立てて追及していく、②とにかく一生懸命に勉強し、問題を自分で考えて、自分で解決する能力を身に付ける、③一生の友達を見つけ、お互いに切磋琢磨する。また、コミュニケーション能力を高めることを養っている。言わば、トータル的な人間力を身に付けることであり、自分の魅力をどれだけ高めることができるかということである。グローバル人材の養成には、この人間力、そして、語学力をしっかり伸ばすことが大切である、と語られた。

谷内氏の講義は、吉田松陰に関する話題も多く、若者の心に関しても語られた。谷内氏の講義を聴き、教育者としての顔に触れることもでき、多くの受講者の心に火が灯ったのではないだろうか。

(平成24年大学院健康福祉学博士前期課程修了 竹永記)

母校の発展に寄与する「ケラススの会」

国際文化学部教授 安光 裕子

ケラススの会は、大学と桜園会理事との情報交換会の席上で、江里健輔学長が「卒業生で教職員となった人が増えていくが、もつと存在感を大きくし、大学のために声を出すことが重要」と発言されたことに触発されて、平成二十三年二月二十三日に、卒業生で本学に在籍する教職員が母校の発展に寄与することを目的として発足しました。

現在、会員は三十三名です。

本会の主な活動は、在学生に桜園会の活動を知ってもらい、卒業後は桜園会会員になるという自覚を喚起することを目的とする「在学生との交流・支援」です。具体的には、お揃いの「桜色」のポロシャツを身に纏い、水無月祭では、参加者全員に冷たい飲み物を手渡し、伝統の騎馬

戦の優勝チームに桜園会長杯を授与したり、華月祭では、大勢の学生の参加を得て、桜園会創立七十周年記念のもちまきを行ったりしました。このような活動を通じて、在学生に桜園会を身近に感じてもらえればと思っています。

また、キャンパス移転に関する意見を集約して、江里学長と小田副理事長に提出するという活動も行ってきました。

これからも、あるときは在学生が身近に感じる桜園会を、あるときは声を出す桜園会を目指して、母校の発展に貢献できるように、ケラススの会は丸となって活動する所存です。

★ケラススは、ラテン語で「桜」の意 (昭和54年国文学)

人事異動

■退職

| | |
|--------|----------------------|
| 正明 明美 | 社会福祉学部教授 |
| 眞竹 昭宏 | 看護栄養学部教授 |
| 阿部 千代 | 看護栄養学部特任教員(教授) |
| 原田 秀子 | 看護栄養学部講師 |
| 西山 真由美 | 看護栄養学部助手 |
| 佐々木 亜希 | 看護栄養学部助手 |
| 大河原 修 | 附属地域共生センター 高齢部門助教 |

■新任

| | |
|--------|-----------|
| 上白木 悦子 | 社会福祉学部准教授 |
| 長谷川 真司 | 社会福祉学部講師 |
| 松尾 義和 | 社会福祉学部助手 |
| 浦山 晶美 | 看護栄養学部教授 |
| 佐々木 直美 | 看護栄養学部准教授 |

■事務局職員転出

鈴木 和則 新産業振興課

■事務局職員退職

・河内麻沙美
・丸山 絵里

■事務局職員転入(・法人採用)

渡邊 昭博 企画グループリーダー
・山田 千恵 生活支援グループ主事



もちまき



優勝杯贈呈

平成25年度 桜園会総会開催

第六十九回桜園会総会が、平成二十五年五月十九日(日)ホテルニュータナカにおいて一六名の出席を得て開催されました。

福田会長より「グローバル人材の養成に努める大学に敬意を表します」と挨拶。江里健輔名誉会長からは、「今年度限りの任期を踏まえて「一抹の淋しさを覚えつつも変革移動の時に生まれる新たなエネルギーに期待したい」とし、「新キャンパス工事中も着工も間近。車の両輪として変わらぬ協力を」とのお言葉を頂きました。

続いて「二〇二五年、超高齢化社会を考える」と題して、医師の立場から江里先生の講演。



約十年後、高齢化は更に進み、未婚者の増加、少子化等により、頼れるのは家族ではなく他人(介護人)という「孤族」が増えていく。その介護人すら減少傾向にある中で「自分の健康は自分で守る」という自覚を持ち、摂生した生活を送ることが肝要だとして、次の四項目を挙げられました。即ち、①適度の運動 ②腹八分目、野菜から食べる合理的順序 ③強いストレスを避け免疫力をつける ④無選択に薬を服用しない、の四つ。

幅広い緻密なデータを基に、高度な内容でありながら、ユーモアを交じえた分かり易いお話に、一同意当たること多く、身につまされながら熱心に拝聴しました。

最後はプロジェクターの画面に旧校舎や懐かしい授業風景が映され、山女学生歌が流れるという温かいお心遣いのほど胸にしみじみ。八年間、大学発展の為にひたすらご尽力下さった江里学長への感謝の念を深くかみしめたことでした。

会食後は、県大吹奏楽団による「サマエさん」「テキーラ」など雨切れのよい演奏に会場は元気一杯。続いて県立大学生歌の大合唱へ。声を合わせ心にし、幸せな一日となりました。

(昭和43年国文卒 熊本記)

平成26年度 桜園会創立70周年記念 総会及び交流会のご案内

総会

■日時

平成26年5月18日(日)
午前10時～午後2時

■場所

ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉2-6-24
TEL083(925)1313

■講演

(演題)
「今日まで、そして明日から」
(講師)
山口県立大学次期学長
長坂 祐二 先生

■会費

5,000円
当番幹事はS・43・48・58・63・H5・10・15・20・25年卒業のクラス幹事さんです

交流会

■日時

平成26年5月17日(土)
午後2時～4時

■場所

山口県立大学学生食堂

■会費

無料
(お茶とお菓子をこ用意しております)

*出席ご希望の方は、5月7日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。



事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。
会費の納入にご協力下さい。

◆桜園会本部経常会費納入(年間千円)をお願いいたします。

*65歳以上の会員で希望される方は、終身会員になることができます。
終身会費は一括払いで1万5千円です。(H23.5.23改定)

◆振込用紙に郵便番号、住所(番地、建物名、部屋番号)、氏名(ふりがな)、電話番号を正確にご記入下さい。

通信欄には会員番号(封筒の宛名シール右下)、卒業年・科・勤務先、送金明細をお書き下さい。

*住所・勤務先の変更、改姓も必ずお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口

山口県立大学同窓会桜園会事務局

住所 〒753-8502 山口市桜畠3-2-1

TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時～17時)

E-mail

ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからもアクセスできます。

(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

平成24年度桜園会会計収支決算書 H25.4.13(単位:円)

| 科 目 | 24年度決算額 |
|------|------------|
| 繰越金 | 3,336,297 |
| 経常会費 | 2,400,000 |
| 本部入金 | 5,440,605 |
| 事業負担 | 690,000 |
| 雑収入 | 90,314 |
| 合 計 | 11,957,216 |

| 支 出 | 費 用 | 額 |
|----------|-----------|---|
| 総会費 | 841,069 | |
| 会議費 | 395,619 | |
| 支部援助費 | 1,077,800 | |
| 報作成費 | 1,264,001 | |
| 公開講座費 | 194,631 | |
| 桜園会費 | 338,209 | |
| 桜の森育成事業費 | 0 | |
| 入会記念品 | 352,296 | |
| 旅費 | 1,440,655 | |
| 通信費 | 116,002 | |
| 印刷費 | 22,050 | |
| 事務局運営費 | 2,504,923 | |
| 退職給与引当金 | 200,000 | |
| 情報管理費 | 100,380 | |
| 備品費 | 136,500 | |
| 消耗品費 | 146,317 | |
| 雑費 | 48,196 | |
| 備 費 | 0 | |
| 合 計 | 9,178,648 | |
| 次年度繰越金 | 2,778,568 | |

第十八回支部長・理事合同会議報告

総会前日の平成二十五年五月十八日(土)ホテルニュータナカにおいて、第十八回桜園会支部長・理事合同会議が開催されました。出席支部は全二十支部中十八支部(県外七支部、県内十一支部)、本部からは理事十三名が出席し、一時間半にわたり活発な意見交換が行われました。

はじめに福田会長のご挨拶の後、国広理事の司会で各支部の近況や問題点などが報告、説明されました。

多くの支部が抱える問題として、支部会出席者の固定化や減少傾向、支部長など役員の引継ぎ、若年会員の活動への参加や協力が少ない、支部予算の確保や使途などが上げられました。

また一方で、これらの問題の打開にもつながる取組みとして、支部会費を下げるため会場をホテルから公民館に変え手作り支部会を企画したり、近隣支部との合同支部会にして支部を越えた交流を図ったり、食事や景色などを

重視した会場選びや日帰り旅行など「出席したい」と思ってもらえるような内容にしたりという工夫も紹介されました。いずれも、会員の希望に沿うことを考えつつ、将来の魅力ある支部活動を目指した素晴らしい取組みだと感じました。

あるひとつのきっかけが同窓会活動に参加する入口になったと耳にすることがあります。そのきっかけを増やすヒントがこの合同会議にあると感じました。



謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

現教 原田 秀子 H25.7.8
旧教 竹野 静雄

◆会員

S27食物 西嶋 和子 H21.11.21
S30被服 藤井 睦子 H22.7.22
S40保育 早間 吉子 H23.3.13
S25国語 小宮 麗子 H23.5.18
S36食物 山近 敦子 H23.7.23
H 8 国文 永峯 ゆう子 H23.8
S28食物 小森田 朝子 H24.3.10
S36被服 田畑 紘子 H24.7.9
S25国語 香田 恵美子 H24.8.24
S22国文 物江 和子 H24.9.24
S19裁縫 江頭 昌子 H24.10.7
S28国文 三好 静子 H24.10.12
S20裁縫 海田 恵美子 H24.10.21
S29被服 山本 知子 H24.10
S32国文 末永 早苗 H24.10
S20家事 岡本 綾子 H24.11.5
S23生活 布浦 文江 H24.12.17
S42被服 古庄 和子 H25.1.19
S44保育 松岡 泰子 H25.2.1
S23被服 山口 美由子 H25.2.10
S24育児 山本 節子 H25.2
S35保育 松永 京子 H25.2
S20家事 神本 輝代 H25.4.5
S40保育 村田 美美子 H25.4.20
S22養訓 田村 幸子 H25.6.26
H25国際文化 竹原 翔子 H25.7
S32被服 中尾 美登里 H25.8.4
S33国文 伊藤 好恵 H25.12.23
S24育児 森永 榮子 H25
S24育児 高橋 フミエ H25
S24生活 磯村 節子 H25
S19裁縫 坪井 せい子
S22国文 相川 淑子
S22国語 石野 房子
S22国語 堺 幸子
S22養訓 志賀 美代子
S22養訓 辺見 和子
S25被服 伊妻 喜久子
S34保育 篠田 睿子
S51被服 肥塚 英子

平成25年度大学との情報交換会

支部の問題は桜園会全体の問題にほかならず、支部の活性化は必ずや桜園会の発展につながると思います。現状や課題を共有できる貴重な場として、合同会議の継続と充実を願います。(昭和60年児文卒 大前記)

大学との情報交換会が五月十八日と十一月二日の二回開催されました。五月の会では、まず江里学長から、同窓会と大学とが車の両輪となつて様々な活動を展開していることへの御礼が述べられ、また、十一月の会では大学の定款変更(理事長・学長の分離等)について学外にもご心

配とご迷惑をかけていることへのお詫びが述べられました。これに対し、福田会長からは、同窓会は大学がよくなるようにという思いを抱いているので、情報交換会という貴重な機会を通して、お互いに忌憚のない意見を出し合いながら、学生のためになるように努力いたしましょうという言葉が返されました。

協議事項としては、いずれも桜の森夢基金の用途の明確化や寄付者への報告の必要性、第二期施設整備計画と新キャンパス内の同窓会事務局の位置、創立七十五周年記念誌発行準備などが取り上げられました。大学だけでは見えない視点や論点を取り上げ、同窓会という立場から何ができるか、何をしてほしいかという熱い議論が交わ

されました。教職員として勤務している同窓生も三十名を超え、「ケラスの会」として学内で活動を始めたことも紹介されました。

五月の会は特に支部長が大学情報を各支部に持ち帰る機会となつていきます。大学へのご意見やご助言等がありましたら、ぜひ支部長あるいは同窓会事務局にお知らせください。

(昭和56年児童文化卒 岩野記)



第十三回桜園会賞 受賞報告

第13回
桜園会賞
功労賞を受賞して

松岡 洋子



私は母校が創立十年を迎えた春、新人生の一人になりました。そして卒業

以来六十年を迎えた年、桜園会功労賞の受賞という、これまで想像もしなかった栄誉にただ戸惑うばかりです。

さて、私が社会人として巣立った頃の社会と現在を比較すると、第二次世界大戦は終わり平和な世の中になっていたとはいえ、まだまだその影響は社会のあちこちに残っていました。

校舎は木造二階建てが二棟、階建てが一棟で、中庭には梅の木が数本植えられていました。これらの建物や梅の木は、現在の前庭に配置されていたのですから、いかにこぢんまり

していたか想像してみてください。

母校は山口女子専門学校として発足しましたが、時代の推移と共に山口女子短期大学、山口女子大学、山口県立大学と名称・組織が変わりました。栄養学科は、女子短大時代に栄養士養成施設に、大学昇格時には、管理栄養士養成施設の指定を受けました。

今朝のニュースで、和食がユネスコの世界遺産に登録されたことを知りました。調理の分野を担当していた私は、「目からうろこ」と感じています。
(昭和28年食物卒)

第13回
桜園会賞
皆様を支えられて

吉村 京



同期生からの花束と共に

この度は「桜園会功労賞」の受賞の栄に浴し、身に余る光栄と存じ、心よりお礼申し上げます。

昭和三年三月、卒業と同時に恩師の勧めに従い、当時女子職員の専門職の一つであった農山村のくらし改善の仕事にスタートし、消費者問題、青少年

問題、男女平等、少子化問題等に係って平成八年退職しました。

退職と同時にライフワークともなった「くらし」の問題、とりわけ地球温暖化防止に二市民として、生活者の視点で取り組みたいと同志で「やまぐちエコ倶楽部」を立ちあげ、十七年間ささやかながら続けております。

今、改めて振り返ってみますと、宮野の里での学生生活、県の職員としてのO・G生活、桜園会の役員、退職後の地域ボランティアの活動を通じて、常に山口県立大学の卒業生であるという、自覚と人脈、そしてそれ

をとりまく友人、先輩、同僚、グループの仲間の温かい助言や支援が、今日までの私の支えとなっていたことに、改めて気づき、感謝申し上げます。

これからも、次の世代を生きる人達に、私達がこれまで培ってきたくらしの知恵や技術・伝統行事・文化を引き継いでいくための活動をつけてまいります。

最後になりましたが、母校と桜園会の益々の御発展をお祈りいたします。
(昭和31年被服卒)

YPU TFT Project 代表 吉田菜奈美

この度、桜園会奨励賞を受賞しました、YPU TFT Projectです。このような賞をいただくことができ、誠に嬉しく思います。

「TFT」とは「Table For Two」の頭文字をとったものです。この活動は、先進国にいるわたしたちがヘルシーな食事をとり肥満を予防すると同時に、途上国にいる子供たちに栄養がとれる給食を食べてもらうという日本全国で導入されている国際貢献です。わたしたちが、今年度新たに始めた活動は、「Walking For Two」です。これは、ウォーキングの国際協力イベントで、8月18日・19日の1泊2日で徳地青少年自然の家で開催しました。「食べる」国際協力を「歩く」国際協力という形に変え、多くの人々が気軽に参加できるようにしたもので、本学の学生だけでなく日本全国から多くの人々に参加していただきました。

今後も既存の活動を続け深めながら新たなことにもチャレンジし、より多くの方がより気軽に国際協力に参加できるよう尽力して参ります。温かく見守っていただければ幸いです。ありがとうございます。
(国際文化2年)



第13回 桜園会賞 奨励賞を受賞して

山口県立大学企画デザイン研究室 岡田祥実

この度、桜園会奨励賞をいただいた、企画デザイン研究室です。このような賞をいただくことができ、誠に嬉しく思います。

私たちは服飾デザインを通した様々な地域連携プロジェクトを行っております。昨年度は山口市徳地でファッションショーを開催し、山口市阿知須では防災グッズの開発、展示などを行いました。

今年度は奇兵隊結成150周年を記念して奇兵隊服を再現するプロジェクトを萩市、全国晋作会連合会と共同で行いました。また10月には長門市油谷で「農業スタイルコレクション2013 in 長門油谷 with 会津若松」というファッションショーを開催しました。山口の伝統織物である柳井編や玖珂縮み、さらに福島会の津木綿などを生地を使用し、若者に地域や農業に対する関心を持ってもらえるような新しい農業ファッションを提案しました。

今後も服飾デザインを通して地域と関わりを持ち、地域がより魅力的になる方法を考えながらプロジェクトを行っていきます。ありがとうございます。
(文化創造4年)



会員近況報告

紡ぐもの

中村奈保子

私が自宅で茶道裏千家、華道池坊のお稽古を始めて早いもので約十八年になります。きつかけは、茶道は娘の通っていた幼稚園での保護者を対象にしたお茶クラブ。華道はご近所の方の習いたいというありがたい一言でした。その後縁が広がりそれを紡ぎながら一緒にお稽古に励み、日々継続力を感じています。

そして六年前より、十六流派で構成される山口県いけばな作家協会に入会し、年一回県内四ヶ所を巡回するいけばな展にも出展しています。

これからも私の師の「道のつく

もの死ぬまで修行」という言葉を胸に刻み、日本の良き伝統の研鑽に励みたいと思っています。
(昭和54年被服卒)



附属郷土文学資料センターからのお願い

当センターは、山口県にゆかりのある文学関係資料の収集・保存・公開を目的として設立されています。当センターでは、会員の皆様執筆された「文学に関する著作」を収集しております。ご著書をご寄贈いただける方は、桜園会事務局までご送付ください。

在学生紹介



第67回二紀展にて絵画部門入選
藤山晴夏(社会福祉2年)



スポーツクライミング、ワールドカップの最終戦で優勝 第63回日本スポーツ賞受賞
小田桃花(国際文化2年)



「ソニーマーケティング学生ボランティアファンド」の助成対象に採択。食育プログラム開発チーム 食育戦隊ゴハンジャー



第7回山口県総合芸術文化祭・第52回全日本吹奏楽コンクール山口県大会大学B部門金賞受賞 山口県立大学吹奏楽団BLAZE

■新刊紹介■

『句集 薄墨桜』

中井 嘉江 著(昭和24年国語卒)
草樹俳句会(非売品)



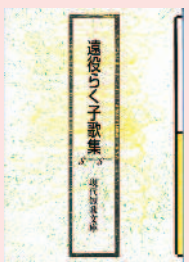
『紫の霧(藤田典子歌集)』

藤田 典子 著(昭和24年育児卒)
(株)ミューズ・コーポレーション
(九三五円+税)



『遠役らく子歌集』

遠役 らく子 著(昭和25年国語卒)
砂子屋書房(一、五〇〇円+税)



『北を見るひと 橋本多佳子論』

倉橋 みどり 著(平成2年国文学卒)
(株)角川学芸出版(二、〇〇〇円+税)



『ままだか みてて』

ままだか ななみ 著
(宮西 美奈子 平成3年児文卒)
(株)ポプラ社(八〇〇円+税)





すばらしい出会い
に感謝

北九州支部 池上 富子



て学ばせていただきました。参加の皆様からは「一分スピーチとして、懐かしい学生時代の思い出や、近況についてお話ししていただきました。素晴らしい先輩、頼もしい後輩達との出会いに、山口県立大卒でよかったと、改めて思った二日でした。当番期の昭和四十三年昭和四十四年卒業の同級生が、この会の為に遠く神奈川や山口から駆けつけてくれ、話の花が咲きました。最後に新旧の学生歌を唄って、ゆったりとした素晴らしい時間を終了いたしました。当日のスナップ写真を編集して皆様に送り大変喜んでいただきました。

(昭和44年食物卒)

新緑眩しい季節に

萩支部 藤井 郁子

新緑が眩しい季節になると、毎年支部総会が開かれます。今年は六月十六日(日)、湯本観光ホテル西京で長門支部と合同の支部総会を開催致しました。

本部から若さあふれる宗内恵美子理事をお迎えし、総会報告・大学の近況を伺いました。恒例の講演は、昨年に引き続き江里健輔学長にお願いしました。演題は今年出版されたご著書の題名「長寿社会を生きぬくた

めに」です。出席した同窓生のお大半は動脈硬化やロコモが気になる年頃、身を乗り出して拝聴しました。「熟女」揃いの同窓生を相手にユーモアあふれるお話を聞き、もっと多くの同窓生に聴いていただき、長寿社会を生きぬくためのヒントにしたいだけだと痛感しました。

午後から会食、同窓生がマイクを握り、近況や想いを語る時間です。お一人おひとりの同窓生が歩まれた人生に、心からの拍手を送りました。

同窓のご縁でお会いできたことに感謝しながら、若い同窓生との出会いの場、大学と同窓生の新時代を築くための構想が求められていると思っております。

(昭和47年国文学卒)



〈平成24年度支部会開催報告〉

| 開催日 | 支部名 | 本部からの出席 |
|-----------|-------------|-----------------------------|
| 25年 4月21日 | 山口支部 | 江里健輔学長/福田百合子会長 |
| 25年 6月 2日 | 近畿支部 | 江里健輔学長/相本艶子副会長 |
| 25年 6月 2日 | 下関支部 | 土田敏子理事 |
| 25年 6月 9日 | 福岡支部 | 小田由紀雄副理事長/福田百合子会長 土田敏子理事 |
| 25年 6月15日 | 関東支部 | 小田由紀雄副理事長/福田百合子先生 |
| 25年 6月16日 | 長門支部 萩支部 | 江里健輔学長 宗内恵美子理事 |
| 25年 6月23日 | 小野田支部 | 長坂祐二副学長/福田百合子先生 原田洋子副会長 |
| 25年 7月 7日 | 宇部支部 | 江里健輔学長/竹永吉伸理事 |
| 25年 8月25日 | 下松支部 | 水谷由美子先生/乃木章子理事 |
| 25年10月 6日 | 東海支部 | 堀尾拓之先生 |
| 25年11月 3日 | 北九州支部 | 松岡洋子先生/乃木章子理事 |

桜園会支部リスト (平成25年12月現在)

| 支部名 | 支部長名 | 支部会員数(名) |
|-----|--------------|----------|
| 関東 | 関田 尚子 (食栄55) | 843 |
| 東海 | 菱川 苑子 (食物40) | 148 |
| 近畿 | 赤木 絹子 (食物45) | 698 |
| 広島 | 松原 正美 (国文33) | 663 |
| 四国 | 村松 幸子 (食物35) | 314 |
| 北九州 | 池上 富子 (食物44) | 455 |
| 福岡 | 基 俊子 (被服43) | 447 |
| 佐賀 | 久保由美子 (食物49) | 143 |
| 大分 | 栗屋 文世 (国文44) | 284 |
| 岩国 | 若林 光江 (国文42) | 252 |
| 柳井 | 矢野 啓子 (食物45) | 225 |
| 下松 | 小田 玲子 (児文56) | 342 |
| 徳山 | 藤井由美子 (国文45) | 398 |
| 防府 | 石丸真由美 (児文59) | 492 |
| 山口 | 熊本 玲子 (国文43) | 1,507 |
| 萩 | 藤井 郁子 (国文47) | 173 |
| 長門 | 中澤 允子 (被服36) | 138 |
| 宇部 | 中磯 和代 (被服47) | 816 |
| 小野田 | 佐藤由紀子 (食栄58) | 184 |
| 下関 | 浜田智恵子 (食物48) | 514 |

編集後記

皆様のご協力により無事、桜園会会報62号が発行できますことに深く感謝しております。母校は今、地域に開かれた大学、グローバル化に対応できる人材の育成を視野に、熱意ある取り組みがされています。今回は、「在学生紹介」として準会員である学生の皆さんを複数取り上げその輝かしい活躍をご紹介しました。大変誇らしく思いますと共に、母校の更なる発展を願ってやみません。

(矢儀記)